

学習塾は、家庭学習の支援を徹底的に行い、社会的使命を果たそう

—今こそ学習塾の出番です—

開倫塾

塾長 林明夫

Q：新型コロナウイルスの拡大が止まりません。学習塾としては、どうしたらよいと考えますか。

A：(1)2021年7月23日からのオリンピック・パラリンピックに、世界の人々を、明るく・楽しく・元気よくお迎えできるように、1日も早く感染拡大を終息させるよう、万全の拡大防止措置をとるべきと考えます。

(2)しかし、現実には厳しく、学校が以前のように平常に戻るまでには、1年くらい要すると考えます。

(3)学習塾にとって、最大の課題は、感染が終息するまでの期間、どうしたらよいかです。

Q：どうしたらよいのですか。

A：(1)学校が土日を含め休みであったり、部活動や学校行事、教科外の教育活動が大幅に縮小されたりして、家庭で過ごす時間が増えています。そこで、「家庭での自学自習(家庭学習)」の支援に、学習塾は徹すべきかと考えます。

(2)家庭での自学自習(家庭学習)の前提は、「学習習慣」です。「学習習慣なくして家庭学習なし」です。

(3)すべての学習塾は、この「学習習慣」を育成することで、「家庭学習」の支援を行い、社会的責任を果たすべきと考えます。

*スカイプやズーム、映像授業を活用しての学習支援は「当然」どこの塾でも行っているもので、その「質」を求めるべきです。

Q：どのようにして「家庭学習」の前提である「学習習慣」を育成したらよいのですか。

A：(1)まずは、「毎日、30分以上、新聞を、じっくり、腰を落ち着けて読む」ことです。

(2)次に、「毎日、1時間以上、自分の好きな本を読む」ことです。「本は、最後まで読み終えること」を学習習慣として身に着けさせることです。

(3)最後に、「意味のわからないことばがあったら、毎日、10回以上、辞書で調べる」ことです。

(4)以上の3つを、はじめは、5分、10分ずつでもOKですから、確実に、行わせることです。1日1回、辞書を引かせることです。これで、「学習習慣」が少しずつ身に着きます。

(5)以上3つで、「学習習慣」と同時に、「語彙力」、「読解力」、「論理的思考能力」、「分析的思考能力」、「批判的思考能力」、「自分で考える力」が、少しずつ身に着きます。

(6)この3つの「訓練」、「練習」は、学習塾の授業中に行ってください。「~をするといよいよ」

と、口先で何回言っても、「練習」、「訓練」を授業中に時間を取って行わない限り、いつまでたっても児童・生徒は行うことができません。「訓練・練習なくして、学習習慣なし」です。

Q：新聞と読書、辞書以外に「学習習慣」を身に着けるために行ったほうがよいことはありますか。

A：(1)「勉強の仕方を学ぶ（learning to learn）」能力・スキルを身に着けることです。

(2)どのようにして学ばばよいか、勉強の仕方を学ぶことに関心を持ち、創意工夫をし続ける。

これは能力、スキルですから、「学習習慣」になるまで、少しずつでも身に着けることです。

(3)例えば、開倫塾では、学習を「理解」「定着」「応用」の3つの段階に分け、それぞれの段階における、効果の上がる学習方法を「**学習の3段階理論**」として具体的に示しています。

(4)ご自分の学習塾でお考えになった効果の上がる学習方法を、少しずつ文章化し、項目別に整理。「～の～理論」などと名付け、塾生や保護者、地域社会の皆様にも周知徹底なことを提案させていただきます。「家庭教育」の前提となる「学習習慣」の育成と同時に、「**地域の教育力アップ**」にも貢献します。

Q：なるほど、「勉強の仕方」ですか。ほかにありますか。

A：(1)「何のために学ぶのか、学ぶ目的を少しずつでも考えさせる」ことです。

(2)現在教えている各教科は、どのように世の中で役立つのかを、先生が例を挙げて説明できるよう、考えるヒントを与えることができるよう、先生としての、勉強に励んでください。

(3)ちなみに、「教育の成果」を決定する要因は、「本人の自覚」と「先生の力量」です。「本人の自覚を促す」ことは、「先生としての力量」に含まれます。「自覚を持って学ぶこと」は「学習習慣」を身に着けるうえで、ターボエンジンの働きをします。「**本人の自覚なくして、学習習慣なし**」といえます。

Q：では、お聞きします。「本人の自覚を促す」にはどうしたらよいのですか。

A：(1)「ことばは力」です。自分が身に着けている「ことば」をできるだけ多く持つ。

(2)世の中で、今、どのようなことが起きているかを知る。これからの世の中は、どのようにあるべきかを、深く考える。そして、自分でできることは何かを、自分のこととして考える。

(3)「ここはどこ、私は誰」と、自分自身を振り返る。省察する。どうありたいかを、深く考える。

(4)そのために、辞書を引き、ことばの意味を知る。新聞を読み、読書に励む。

(5)いつの間にか、元に、戻ってしまいましたね。

Q：受験生はどうしたらよいのですか。

A：(1)2020年度は、学校休校や、土日完全休み、部活動や学校行事、教科外教育活動大幅縮小で、家庭での滞在時間が長くなっていますので、受験生は、生活に必要な時間以外、入試前日まで、一心不乱に机に向かうべきこと、当然です。

(2)本年度は、4月、5月から、受験勉強に専念できるのですから、ピンチ・危機をチャンスに変え、トップ校・難関校・倍率の高い学校を含む第1志望校合格に向け、「一所懸命」、

一つの所で命を懸けるくらい熱心に受験勉強に専念すべきです。

(3) 普段の年であれば、入試直前でも取れないくらい十分な受験勉強の時間が、今年は受験の8～10か月前から取れるのですから、最大限に活用すべきです。学習塾の先生は、「**受験生は、今から、受験勉強に専念しよう**」と、言い切り、家庭学習を最大活用させてください。

(4) ただし、受験勉強をスタートするにも、「受験生としての自覚」が不足し、「学習習慣」が身に着いていなければ、一步も進みませんので、まずは、「受験生としての自覚」を促し、同時に、「学習習慣」の育成から始めてください。

Q：最後に一言どうぞ。

A：今月も先生方がお読みになればお役に立つ本を何冊か、ご紹介いたします。

(1) 1冊目は、神戸大学大学院医学研究科教授、岩田健太郎先生著『感染症パニック』を防げ！リスク・コミュニケーション入門』光文社新書、光文社 2014年11月20日刊です。同先生著「インフルエンザ、なぜ毎年流行するのか」ベスト新書KKベストセラーズ 2018年11月20日刊とともにお読みください。ジェニファー・アッカーマン著「かぜの科学、もっとも身近な病の生態」ハヤカワ・ノンフィクション文庫、早川書房 2014年12月24日刊は、「かぜにかからない鉄則」として、「手で〇〇に触らない！」を訴えています。この3冊で、新型コロナウイルス対策がよくわかります。

(2) 2冊目は、マッキンゼー社長を務め、東京大学AMPをリードなさった横山禎徳（よしのり）先生著「組織 組織という有機体のデザイン 28のボキャブラリー」ダイヤモンド社 2020年3月18日刊です。わかりやすさ抜群の組織論。高業績チーム(High Performance Team)づくりの基本が学べる、横山先生の最新著。

(3) 3冊目は、国際経済評論家であり防衛大学で長らく教鞭をとられた、長谷川慶太郎先生の遺作「中国は民主化する」SBクリエイティブ 2020年3月21日刊です。武漢発新型コロナウイルス拡大は、中国をどう変えるか。長谷川先生の見解をお伺いしたかったのですが、残念です。あとは、中国国民とともに日本や世界の人々はどう歩んだらよいか、本書を読み、自分で考える以外ありません。

(4) 4冊目は、東京大学社会科学研究所教授、宇野重規著「政治哲学へ、現代フランスとの対話」増補新装版、2019年5月16日刊です。宇野先生は、「西洋政治思想史の1つの特徴は、そこでの**ボキャブラリーの強固な連続性**、そしてその背景にある**問題意識の強固な連続性**にある」（同著6ページ欄外より引用）と、日本の政治や文化の不連続性を指摘しています。

(5) 5冊目は、高村光太郎訳「ロダンの言葉抄」岩波文庫、岩波書店 1960年7月5日刊（2020年2月6日復刊）です。力強く、みずみずしい高村光太郎訳「**ロダンの言葉**」が、復刊運動の結果、よみがえりました。ありがたい限りです。ぜひご一読ください。力にあふれています。